

歴史・伝統文化

明治～昭和

1 廃藩置県と福山

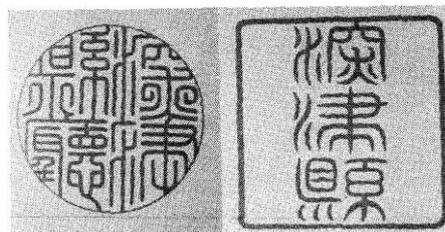
明治に入り、廃藩置県により、1871年(明治4年)7月に福山藩がなくなり、福山県となりました。その後、福山県をはじめとする近隣の県が統合され深津県になりました。

深津県には、備後(沼隈・芦田等)と備中(倉敷・高梁等)が含まれ、現在の広島県と岡山県が混ざった形になっていました。

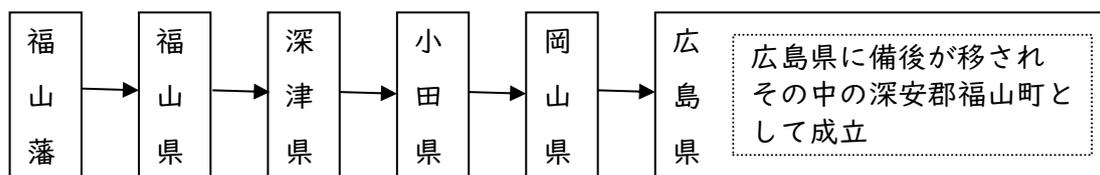
さらに1872年(明治5年)6月には、笠岡を県庁とする小田県となりました。(備中11郡・備後6郡・人口約50万人)。

1875年(明治8年)12月、小田県は岡山県に合併され、1876年(明治9年)岡山県から、備後6郡が分離して広島県へ移りました。

政府が国会開設の勅諭を出し、地方でもそれにみあう諸制度の整備が必要だったことから、市制・町村制を取り入れることになり、芦田・品治両郡を芦品郡、深津・安那両郡を深安郡として統合し、深安郡の福山町が成立しました。



〔深津県の印〕



〔福山町成立までの流れ〕

2 福山市の誕生

(1) 野上・三吉両村の合併

1908年(明治41年)「歩兵41連隊」が福山に配置されました。また、両備・鞆の両軽便鉄道が開通したことで、福山の町を行きかう人々が増えました。

1913年(大正2年)には、野上・三吉両村と合併し、人口・戸数が増加しました。このことで、市制施行の条件をほぼ満たすこととなり、市制化が進みました。



〔歩兵41連隊正門〕

	合併前	合併後
人口	20261人	24802人
戸数	4967戸	6046戸

〔野上・三吉村との合併前後の福山町〕

正門は、今の緑町公園あたりだったんだよ。



(2) 市制施行

1916年(大正5年), 県知事あてに福山町を福山市にする意見書が出され, 7月1日に福山町から福山市になりました。阿武信一前町長が, 市長臨時代理として仕事を行っていましたが, そのまま初代福山市長として任命され就任しました。

(3) 福山市旗章

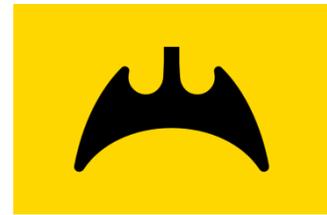
市旗章は, 黄色地に黒の“こうもり”を「山」の字にデザイン化したものです。この市旗章の作成には, 市制施行当時, 有名建築家として活躍していた福山出身の武田五一がかかわっています。

福山城の付近はかつて蝙蝠山と呼ばれており, こうもりは本来, 中国思想の影響から縁起の良い動物とされ, 「蝠」は福に通じることと初代藩主水野勝成が「福山」と名づけたとする言い伝えに基づいてモチーフが選ばれました。

近年では, 「市の花」として, ばら(1985年制定)と菊(2003年制定)があり, ばらを模したシンボルマークが市の出版物に描かれていたり, 市の施設などばらにちなんだ名称が使用されたりと, ばらが「市章」に準じたものとなっています。



〔当時の新聞記事〕



〔福山市旗章〕



〔ばらのシンボルマーク〕

ふるさと豆知識

武田五一

福山藩出身の建築家で, 「関西建築界の父」とも言われています。近代日本を代表する建築家の1人です。ヨーロッパに留学し, アールヌーボーなど, 新しいデザインを日本に紹介しました。国会議事堂建設をはじめ多くのプロジェクトにかかわっています。



市制施行と近代水道の建設

明治期の終わりごろ, 江戸時代の旧水道の老朽化や福山の発展のため, 近代水道の建設が計画されました。しかし, 建設には多額の費用がかかり, 国からの補助金を受ける必要がありましたが, 補助を受けるには市制施行が条件であったため, 計画は進みませんでした。

そこで, 近代水道の建設を実現させるためにも, 早期の市制施行が望まれるようになりました。1916年(大正5年)の市制施行が整った

ことにより, 念願の近代水道建設計画は実行に移され, 1925年(大正14年)に熊野町に作られた貯水池を水源とする, 佐波浄水場が完成しました。この近代水道は, 福山の発展に大きく貢献する施設となりました。旧佐波浄水場の施設の一部は, 国の登録有形文化財に登録されています。



〔旧佐波浄水場〕

3 福山大洪水

昔から、福山市民の生活を支えてきた芦田川はたびたび、大雨などによる堤防の決壊により、人々を苦しめる大水害を引き起こしてきました。

とりわけ、市制施行間もない1919年（大正8年）7月の水害による被害は甚大なものでした。連日の豪雨で水位の増していた芦田川の堤防が決壊し、現在の古野上町、霞町辺りに一気に水が流れていきました。鷹取橋付近では、水かさ4.15mを記録しています。

福山市内は、見渡す限り泥の海と化し、公園や小高い所は避難者であふれ、被災した人々に対する炊き出しは、長い所で12日間も続きました。もちろん汽車・郵便・電話・電信の多くは止まっていました。

市制施行以来、都市づくりを進めてきた福山は、この大水害を経験し、都市としてより発展するためには、芦田川の治水が必要であると考えました。議会だけでなく、市民もさまざまな対策を考えているさなか、9月に再び豪雨が降り、応急修理していた各地の堤防が決壊し、神辺一带、西部地域は水に浸されました。5月の大水害ほどの被害はありませんでしたが、数名の命が失われています。

今のわたしたちのくらしからは想像できない苦労があったんだね。



〔芦田川堤防切れ口〕

死傷	25人
全壊・半壊・流失家屋	271戸
床上浸水	4215戸
床下浸水	1177戸
堤防決壊・破損	806か所

〔被害状況〕



〔濁流により倒壊した民家〕



〔被災市民による炊き出し〕

福山の人々は古くから芦田川の洪水に苦しめられ、その度、町を復興させ続けてきました。また、洪水が起こらない川の流れに改修する工事も長年にわたり行われるなど、今のわたしたちの安全なくらしがあるのは、芦田川と闘った人々の苦勞のおかげなのです。

年	できごと
1923年（大正12年）	改修工事を始める
1945年（昭和20年）	台風による大洪水後、復旧作業を開始 1961（昭和36）年にほぼ完了
1967年（昭和42年）	中津原浄水場の送水開始
1977年（昭和52年）	高屋川の改修
1981年（昭和56年）	芦田川河口堰完成
1998年（平成10年）	上流に八田原ダム完成

〔芦田川の改修〕



〔八田原ダム（H10.3完成）〕



〔中津原浄水場（S42～）〕



〔高屋川の改修（S52～）〕



〔草戸千軒掘削（H4～H14）〕



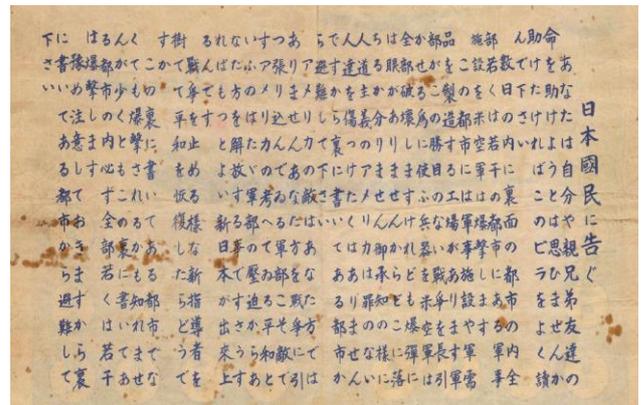
〔芦田川河口堰（S56.6完成）〕

4 福山大空襲

(1) 空襲

アメリカ軍の本土空襲が全国に拡大される中、福山地区への空襲は1945年（昭和20年）3月19日から始まりました。最初は、大津野村にあった福山海軍航空隊が、空母艦載機によって繰り返し銃撃を受け、7月になると、市街地への空襲を予想して市中心部の建物疎開が始まりました。

7月31日の夜、アメリカ空軍が約6万枚の空襲予告の伝単（ビラ）を投下しました。



〔空襲予告の宣伝ビラ表・裏〕

福山市街地への空襲は、1945年（昭和20年）8月8日、午後10時25分頃から、約1時間にわたって、B29爆撃機91機によって行われました。警戒警報発令の約10分後に空襲警報が発令されましたが、この時すでにB29の大編隊は福山市上空に達していました。B29から、最初に照明弾が、その後焼夷弾が次々に投下され、市の周辺部各所から一斉に火災が発生しました。B29は、高度4000mぐらいから次第に高度を下げながら市街地への波状攻撃を繰り返し、約556+もの焼夷弾を投下しました。

全市は、たちまち火の海と化して、福山市街地は壊滅的な被害を受けました。

種類	収束爆弾 (M17型)	油脂焼夷弾 (M47型)	合計
数量(発)	1666	4035	5701
重さ(t)	416.5	139.2	555.7

〔焼夷弾の数量〕

犠牲者数	355人
重軽傷者数	864人
焼失家屋数	10179戸
被災人口	47326人
市街地焼失面積	314ha 市街地の約80%

〔被害状況〕



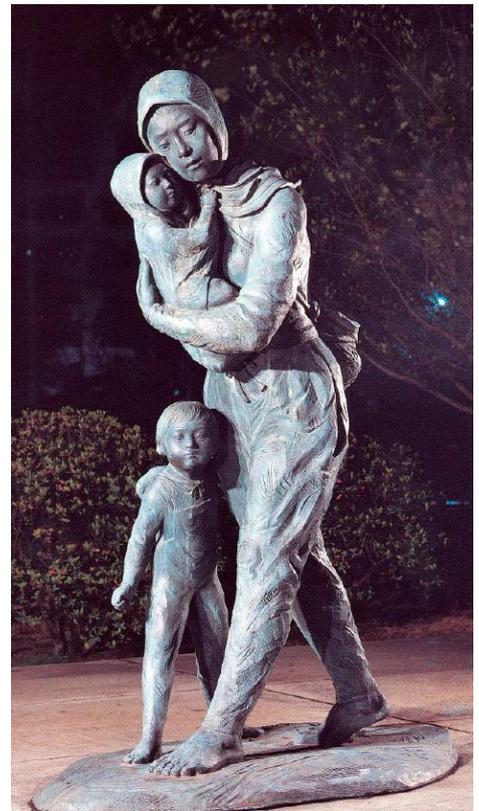
三吉町の藤原邦子さんが描いた『^{ほのお}炎に包まれる市街地』の絵だよ。

藤原さんは、敵機が帰っていくのを見たそうだよ。^{おそ}恐ろしい様子が伝わってくるね。



ふるさと豆知識 被災母子の目撃談 もくげきだん

8月9日の朝、^{ほて}火照るような暑い市中に入り、住吉町の水田の中に、母子3人の焼死体を見つけました。母親は四つん^ば這いになり、胸にすがりついた赤ちゃんを、片手でしっかり抱きよせ、まるで乳を飲ませるような格好でした。そして、その母親の後ろ足を6歳くらいの子が両手でしっかりつかまえて、ひざまずいていました。着物などは焼けてしまって、^{いた}遺体はまるでろう人形のようなものでした。水田の中に入っていれば、水があるので助かると思ったのですが、^{いね}稲は焼け、水は^か枯れて母子は蒸し焼きになってしまったのです。



〔母子三人像〕

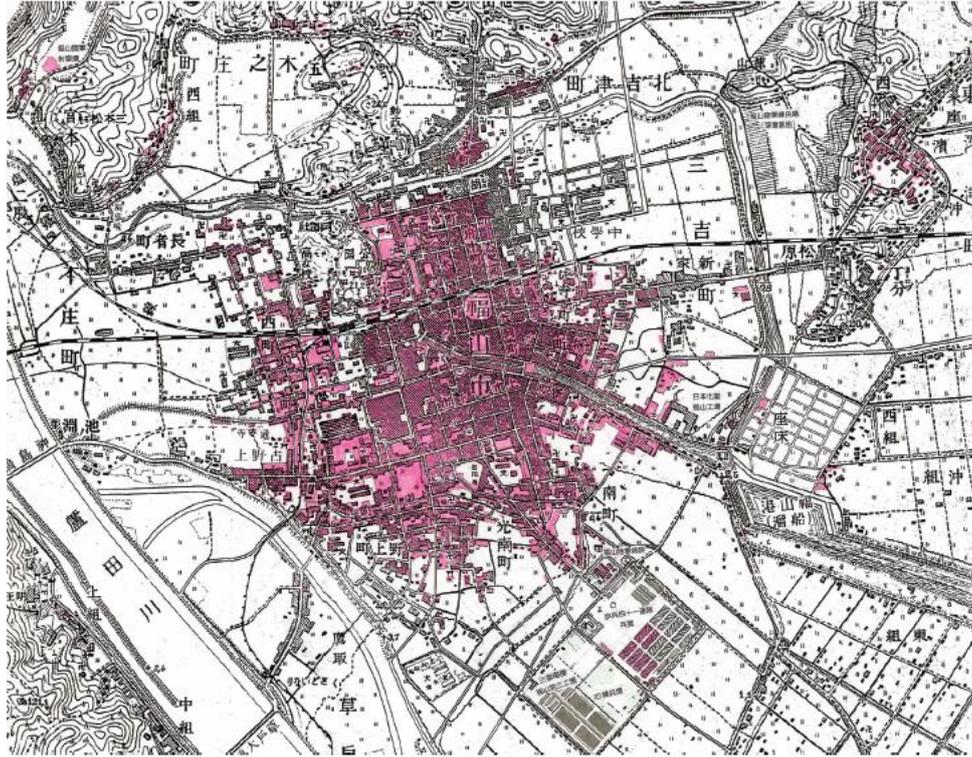
空襲後の市街地の様子



〔御船町から西を望む〕



〔住吉町付近〕



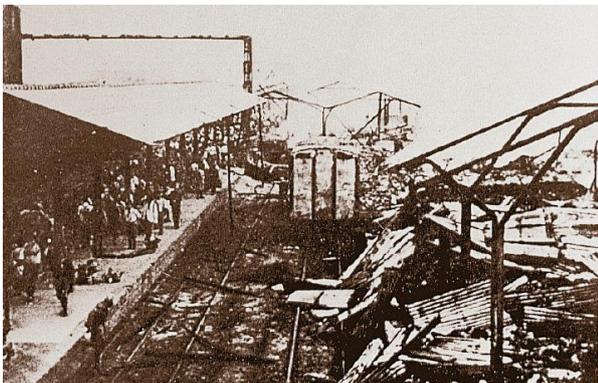
〔福山被災地域図〕



〔空襲後の街の様子〕



〔現在の街の様子〕



〔焼け落ちた福山駅〕



〔現在の福山駅〕

5 戦後の復興

(1) 市場の開設（福山市公認市場）

1945年（昭和20年）8月8日の福山大空襲で市街地の約8割が焼かれ、その一週間後に敗戦をむか迎えました。福山市民は、絶望の中から立ち上がり、復興へ向けて力強く活動を始めました。



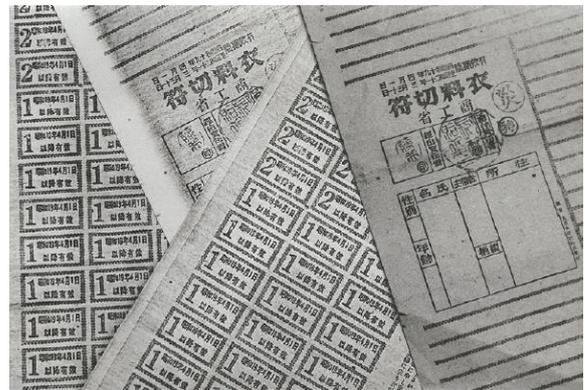
〔1951年（昭和26年）頃の福山駅〕

終戦後の福山には、戦争中の重苦しいあっぱく圧迫感とは異なり、開放感があふれていました。

そうした中で、生活物資の不足は市民の復興に向けた活動さまたを妨げました。当時は戦争中に引き続いての配給制でしたが、物資不足のために配給される物資そのものがごくわずかしかなかった。



数量が十分でない物資をわりあて、配る制度のことを、「配給」って言うんだよ。
戦争中にはガソリン、米、砂糖、マッチ、衣類などが配給されていたんだよ。



〔衣類の配給を受けるための切符〕

そこで、福山市はこうした生活物資不足に対する対応策として、1946年（昭和21年）2月、福山駅前西側に生活必需物資総合配給所ひつじゅを開設しました。物資のスムーズな流通をはかるために、信用ある商人に集荷から配給までをゆだ委ねるという画期的な解決策が決定されました。その後、総合配給所は福山市公認市場としてスタートすることとなりました。

ふるさと豆知識

コレラの流行

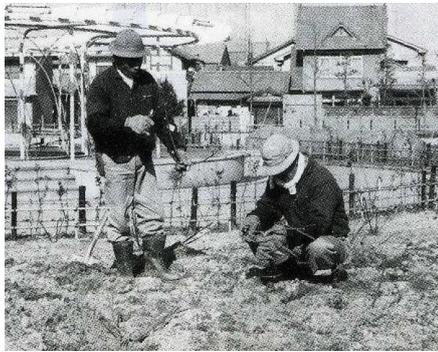
コレラは食物に混じって、コレラ菌きんという細菌が体内に入り感染する病気です。1946年（昭和21年）の6月に福山で10名の患者かんじやが発見され、2名が死亡しました。市はただちに予防活動を開始しましたが患者数は急増し、広島県は福山市への人の出入り禁止を指示しました。7月26日に指示が解かれるまでの患者総数は114名、うち30名が死亡しました。

(2) 住宅の建設

戦災を受け住宅を失った人たちが、戦争から戻ってきた人たちへの住宅の建設も緊急を要しました。1946年（昭和21年）、6畳と2畳に玄関・押し入れ・便所・建具付きの簡易住宅1000戸が建てられました。

(3) ばらのまち福山

戦争や空襲による傷がまだ福山のまちや人々の心に残る1950年代半ばのことです。南公園（現在のばら公園）付近の住民により「荒廃した街に潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そう。」と、ばら苗約1000本が植えられました。この苗が、「ばらのまち福山」のスタートなのです。



〔地域住民がばらを植栽している様子〕



〔現在のばら公園〕

ばらのまちを目指した福山の取組は、
【今・未来】「ばらのまち福山」にくわしく載っているよ。

